

平成 3 1 （令和元）年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立鯉江東小学校

令和 2 年 2 月

大阪市立鯉江東小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査において全教科で課題がみられる。特に、全教科で 2 極化の傾向が認められ、さらなる「わかる授業」づくりが急務である。
- 全国学力・学習状況調査の意識調査では各設問に対して「当てはまる」と積極的な回答をしている児童の割合の低い項目が多く、学習や自分についての自信のなさがかがえられる。
- 学習規律や家庭学習の習慣は身につけてきている。しかし、家庭での生活は、学習時間・テレビ等でゲームの両項目で、多くの時間を使っている児童が多い。過ごし方が二つに分かれているように思われる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合的な運動能力は良好である。ただ、長座体前屈・ソフトボール投げ・50m 走において課題がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における運動に関する意識は、男女ともに否定的な回答が目立つ。運動することが嫌い・苦手と思っている児童が多いのも課題である。
- いじめや不登校の問題において、解決すべき課題はあるが、保護者や関係機関と連携して取り組んでいる。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成 33 年度の小学校経年調査「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を 90%以上にする。(29 年 94.8%・30 年 93.4%)
- 平成 32 年度末の学校生活アンケートにおける「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を 90%以上にする。(30 年校内 95.8%・30 年経年 84.8%)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 33 年度の小学校経年調査における正答率 7 割以下の児童の割合を、いずれの学年も平成 30 年度より 5 ポイント減少させる。
(30 年度 3 年 13.6%・4 年 11.8%・5 年 11.6%・6 年 9.3%)
- 平成 33 年度の全国体力・運動習慣調査において、体力合計点が大阪市平均を越すようにする。

		男子	女子
30 年度	本校	52.7	54.28
	大阪市	52.8	54.45

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。（認知したいじめ件数 30年1学期71件・2学期51件・3学期36件）
- ・小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を90%以上にする。（29年度経年94.8%・30年度経年93.4% 校内97.3%）
- ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（29年度対児童0% 対教師0%・30年度対児童0% 対教師0%）
- ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる割合を、前年度より減少させる。（29年度2名0.5%・30年度3名0.7%）

学校園の年間目標

- ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を90%以上にする。（29年度 経年85.7%・30年度 経年84.8%・校内95.8%）
- ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を75%以上にする。（29年度63.8%・30年度66.7%）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
(29年4科標準化得点 3年 97.3 → 4年 101.5 → 5年 97.3 → 6年 103.8)
(30年4科標準化得点 3年 102.6 → 4年 102.1 → 5年 104.9 → 6年 100.1)
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
(29年4科 3年 25% → 4年 32.6% → 5年 44% → 6年 27%)
(30年4科 3年 13.6% → 4年 11.8% → 5年 11.6% → 6年 9.3%)
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
(29年4科 3年 6.2% → 4年 4.4% → 5年 10.9% → 6年 8.5%)
(30年4科 3年 33.9% → 4年 27.9% → 5年 36.2% → 6年 24.1%)
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の記録を前年度より増加させる。（29年 75.1%・30年 74.3%）
- ・全国体力・運動能力習慣調査において、体力合計点を前年度より1ポイント増加させる。
(29年 男子 50.9 女子 55.5・30年 男子 52.7 女子 52.28)

学校園の年間目標

- ・全国体力・運動能力習慣調査において、課題である長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。

(29 年 男子：長 31.7 cm ソ 21.6m 女子：長 37.9 cm ソ 14.1m)

(30 年 男子：長 31.5 ソ 20.9 女子：長 32.2 ソ 13.7)

(30 年秋 男子：長 33.1 ソ 21.1 女子：長 36.2 ソ 14.8)

- ・校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を 80%以上にする。 (29 年校内 85.3%・30 年校内 83.3%)
(清潔検査に加え、歯・口の中の衛生にも関心をもたせるアンケート項目をいれる)

3 本年度の自己評価結果の総括

全市共通目標 (小・中学校)

- ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 (認知したいじめ件数 30 年 1 学期 71 件・2 学期 51 件・3 学期 36 件)
★本年度いじめアンケートで認知したいじめ件数は 1 学期 67 件、2 学期 47 件、3 学期 43 件であった。いじめ認知件数は昨年度より増えている。本年度はいじめアンケートを件数だけでなく、継続して「いじめられたことがある」の設問に「はい」と答えた児童を記録しその状況の把握に努めた。
- ・小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を 90%以上にする。 (29 年度経年 94.8%・30 年度経年 93.4% 校内 97.3%)
★小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答した児童の割合は R1 年度経年 86.6%、校内 97%であった。前年と同様高い数値であるが実態とはやや乖離しているのが実態である。
- ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 (29 年度対児童 0% 対教師 0%・30 年度対児童 0% 対教師 0%)
★校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を減少させるについては R1 年度対児童 0%、対教師 0%であった。
- ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる割合を、前年度より減少させる。 (29 年度 2 名 0.5%・30 年度 3 名 0.7%)
★新たに不登校になる割合を、前年度より減少させるについては、R1 年度 4 名で 0.8%であった。高学年児童で不登校の割合を超える欠席日数の児童が増えた。

学校園の年間目標

- ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を 90%以上にする。
(29 年度 経年 85.7%・30 年度 経年 84.8%・校内 95.8%)
★「学校生活は楽しいですか」の項目において肯定的な回答した児童の割合は R1 年度経年 83.0% 校内 94%であった。これまでより約 2%下がった。

- ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を75%以上にする。(29年度63.8%・30年度66.7%)

★「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において肯定的な回答をした児童の割合はR1年度71.5%であった。学校への来客に対する挨拶ができるようになりつつある。

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

	29年	30年	R1年		
3年4科標準	97.3	102.6	102.2		
4年4科標準	101.5	102.1	102.6		
5年4科標準	97.3	104.9	101.7		
6年4科標準	103.8	101.7	99.4		

★前年度に比べ4科標準化得点で向上した学年はなかった。

- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。

	29年	30年	R1年		
3年正答7割未満	25.0	13.6	11.9		
4年正答7割未満	32.6	11.8	10.2		
5年正答7割未満	44.0	11.6	8.2		
6年正答7割未満	27.0	9.3	20.3		

★4年5年が正答率7割未満の児童の割合を下げる事ができた。

- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。

	29年	30年	R1年		
3年正答2割以上	6.2	33.9	36.9		
4年正答2割以上	4.4	27.9	37.3		
5年正答2割以上	10.9	36.2	31.1		
6年正答2割以上	8.5	24.1	33.3		

★4年5年が市平均正答率を2割以上上回る児童の割合が上回った。

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の記録を前年度より増加させる。(29年75.1%・30年74.3%)

★「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合はR1年度75.6%となり前年度よりわずかながら増加した。

- ・全国体力・運動能力習慣調査において、体力合計点を前年度より1ポイント増加させる。

	29年	30年	R1年		
5年男子	50.9	52.7	49.31		
5年女子	55.5	52.28	52.72		

★男子は道警特典が3ポイント下がり女子は0.5ポイント上がった。

学校園の年間目標

- ・全国体力・運動能力習慣調査において、課題である長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。

(29年 男子：長 31.7 cm ソ 21.6m 女子：長 37.9 cm ソ 14.1m)

(30年	男子：長 31.5	ソ 20.9	女子：長 32.2	ソ 13.7)
------	-----------	--------	-----------	---------

(30年秋 男子：長 33.1 ソ 21.1 女子：長 36.2 ソ 14.8)

R1年	男子：長 28.73	ソ 20.77	女子：長 36.61	ソ 12.98)
-----	------------	---------	------------	-----------

★女子の長座体前屈以外は記録が下がった。

- ・校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。 (29年校内 85.3%・30年校内 83.3%)

★健康な生活を送ることを問うアンケートの肯定的な回答率は90%となった。しかし、歯と口の健康に保つための取り組みを問う肯定的な回答率は56%しかなく、今後の取り組みの改善が必要である。

(様式例 2)

大阪市立鯉江東小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 (認知したいじめ件数 30 年 1 学期 71 件・2 学期 51 件・3 学期 36 件) ・小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を 90% 以上にする。(29 年度経年 94.8%・30 年度経年 93.4% 校内 97.3%) ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。(29 年度対児童 0% 対教師 0%・30 年度対児童 0% 対教師 0%) ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる割合を、前年度より減少させる。(29 年度 2 名 0.5%・30 年度 3 名 0.7%) <p>学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を 90% 以上にする。 (29 年度 経年 85.7%・30 年度 経年 84.8%・校内 95.8%) ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を 75% 以上にする。(29 年度 63.8%・30 年度 66.7%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】</p> <p>児童の実態を把握し、いじめなどの早期発見に努め、その解消に取り組む。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>月 1 回の生活指導部会において、いじめなどの事案について話し合い、本校のいじめ防止基本方針にのっとり、その解決に向けた学校環境づくりに取り組む。</p>	B
<p>取組内容②【施策 1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】</p> <p>「学校のきまり・規則」を常に児童が意識し、実践するように日々指導を行う。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内アンケートを実施し、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を 90% 以上にする。</p>	B

取組内容③【施策1 道徳心・社会性の育成】 自尊心の向上に取り組むと共に、互いに思いやる心を育て、暴力行為を行う児童の減少に努める。	A
指標 児童に対する学校生活アンケートの「友だちとなかよくできていますか」の項目について「はい・どちらかといえばできている」と答える児童の割合を80%以上にする。	
取組内容④【施策1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】 不登校児童対策において、保護者や関係機関と連携した取り組みを進め、不登校児童の割合を、前年度より減少させる。	B
指標 児童の状況を適切に把握し、保護者や関係機関と連携して状況に応じた多様な取り組みを行う。 児童の状況把握をするための具体的な施策を図る。	
取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 異学年によるグループ活動や行事を通して、お互いの気持ちの交流を図り、協力することの大切さを学ばせる。	A
指標 児童に対する学校生活アンケートの「学校生活は楽しいですか」の項目について、「はい・どちらかといえば楽しい」と答える児童の割合を90%以上にする。	
取組内容⑥【施策3 道徳心・社会性の育成】 挨拶は人とのつながりがうまれることを児童に指導することを通して進んで挨拶ができる児童を育成する。	B
指標 校内アンケートの「学校では進んで挨拶をしていますか」の項目において「はい」と答えた児童の割合を75%以上にする。 校内アンケートの「地域の見守り隊の人」「学校へのお客様」への挨拶に関する項目において肯定的な回答をした児童の割合を90%以上にする。	
年度目標の達成状況の結果と分析	
① 月1回の職員会議後の生活指導事案の確認を続けて行うことで、教職員間での情報共有ができた。また、学期に1回のいじめアンケートにより子ども同士のトラブルについて早期に対応できた。 ② 朝の会・帰りの会での学級指導や日々の声かけにより、規範意識は高まってきている。校内アンケートの結果では、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目で、肯定的に答えた児童の割合は、どの学年も90%を超えている。しかし、廊下・階段の歩行については不十分な実態がある。 ③ 指標である学校生活アンケート「友だちとなかよくできていますか」の肯定的な回答は、10クラス以上で目標の80%を大きく上回ることができた。ただ、友だちとのトラブルの際、暴力行為を行う児童もあり、指導を続けている。 ④ 各担任が児童の実態や家庭環境を把握し、定期的に家庭訪問や電話連絡等行い対応する	

ことができている。ただし、連絡がなかなか取れない場合や、児童本人と直接会えない場合が家庭によってはあるため記録を取りながら現状維持の状態が続いている。

- ⑤ 学校生活アンケート「学校生活は楽しいですか」の項目において肯定的回答が目標の 90% をこえている。しかし、各学級においては目標指数にわずかにおよんでない実態もある。
- ⑥ あいさつの大切さについて、児童朝会や学級で指導してきたので、自ら進んで挨拶する児童が増えてきた。校内アンケートで「進んであいさつしていますか」「地域の方やお客さんへの挨拶ができていますか」の項目で、肯定的に答えた児童が 90% を超えていたが、自分から進んで挨拶することが難しい児童もいる。

次年度への改善点

- ① 報連相シートの入力を徹底して行うことを続けることが必要である。学級のみで対応するのではなく、学年間、管理職、職員全体で連携する方法をこれまで以上に考えていく。生活指導事案のみでなく、教職員間で共通理解の必要な児童についての情報共有が必要であるため、その方法や時間を検討していく。
- ② より一層規範意識を高めるために、日々、声かけをし、注意喚起を根気強く行っていく。
- ③ 暴力行為がより少なくなるように、該当児童にはそのたびに指導していく。今後も自尊心を向上させ、互いに思いやる心を育てられるよう個別、全体への指導を続けていく。
- ④ 担任を中心に継続的な対応が必要である。しかし、現状では担任の負担が大きい場合もある。その為、児童理解研修会（不登校児童対策）を設けて、学校全体の不登校児童（不登校傾向も含む）の現状や家庭環境等を共通理解し、児童・保護者への対応策をより一層教職員全体で出し合えるようにする必要がある。
- ⑤ 異学年交流の場においては児童数増加にともない、場の工夫の必要性がある。
- ⑥ より一層気持ちのよい挨拶ができるよう、児童への声掛けや指導の工夫をする必要がある。

大阪市立鯉江東小学校 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (29 年 4 科標準化得点 3 年 97.3 4 年 101.5 5 年 97.3 6 年 103.8) (30 年 4 科標準化得点 3 年 102.6 4 年 102.1 5 年 104.9 6 年 100.1) ・ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。 (29 年 4 科 3 年 25 % 4 年 32.6 % 5 年 44 % 6 年 27 %) (30 年 4 科 3 年 13.6 % 4 年 11.8 % 5 年 11.6 % 6 年 9.3 %) ・ 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。 (29 年 4 科 3 年 6.2 % 4 年 4.4 % 5 年 10.9 % 6 年 8.5 %) (30 年 4 科 3 年 33.9 % 4 年 27.9 % 5 年 36.2 % 6 年 24.1 %) ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の記録を前年度より増加させる。(29 年 75.1 %・30 年 74.3 %) ・ 全国体力・運動能力習慣調査において、体力合計点を前年度より 1 ポイント増加させる。(29 年 男子 50.9 女子 55.5・30 年 男子 52.7 女子 52.28) <p>学校園の年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国体力・運動能力習慣調査において、課題である長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。 (29 年 男子 : 長 31.7 cm ソ 21.6m 女子 : 長 37.9 cm ソ 14.1m) (30 年 男子 : 長 31.5 ソ 20.9 女子 : 長 32.2 ソ 13.7) (30 年秋 男子 : 長 33.1 ソ 21.1 女子 : 長 36.2 ソ 14.8) ・ 校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を 80 %以上にする。(29 年校内 85.3 %・30 年校内 83.3 %) (清潔検査に加え、歯・口の中の衛生にも関心をもたせるアンケート項目をいれる) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】 教員の指導力向上と校内研修の支援の充実に取り組む。 研究教科「算数」を重点に、算数指導の充実と進化に取り組む。 ICT 機器を活用し、プログラミング的な思考を育む教育の研修を行う。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標 各教員は年間 1 回以上の研究授業を行い、指導力の向上を図る。 算数の授業における「授業はよくわかりましたか」のアンケート項目について、肯定的な回答の児童の割合を 90%以上にする。 ICT 機器を活用した授業実践を推進する研修を 2 回以上もつ。</p>	A
<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 子どもの体力・運動能力向上のための取組みの充実を図る。 年間を通して柔軟性や投げる力の向上にむけた取り組みを行う。(カリキュラム改革関連) 子どもの体幹を鍛え、調整力を養うための取組みの充実を図る。</p> <hr/> <p>指標 体育の授業や運動遊びで継続的な取り組みを全学年で行う。 (ストレッチ・縄跳び・水泳・ドッジボール等) 課題のある柔軟性を高めるための取り組みを全学年で行う。 (体育科の準備体操を含む) 1・2 学期に「長座体前屈」「ソフトボール投げ」の記録をとり、8 割以上の児童が 1 学期の記録を上回るようにする。 体育の授業の中で、用具・器具を用いた運動に取り組み、校内アンケートの「運動をするのは好きですか」の項目において肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上にする。</p>	C
<p>取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組み】 「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習に努める。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/> <p>指標 研究教科の算数科を中心に、学習課題を明確にした問題解決的な学習を行う。 学習の中に、「自分で調べ考える」「小グループで話し合う」などの場を設定し、主体的で対話的な学びを推進する。 算数の授業における「自分の考えをもつことができましたか」のアンケート項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 80 パーセント以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【施策 7 健康や体力保持を増進する力の育成】 保健委員による週 1 回の清潔調べや歯みがき週間の実施、さらには「保健だより」などの活用を通して、清潔なハンカチやティッシュを携帯し、手洗い、うがいなどの食後の口腔内衛生に取り組み、すすんで自分の健康を保とうとする習慣が身につくように指導する。 (カリキュラム改革関連)</p> <hr/>	B

<div>指標</div> <div>保健委員による週 1 回の清潔調べで、「ハンカチ、ティッシュを持って来ている」と答える児童の割合をどの学級も 80%以上にする</div> <div>児童が自分の歯や口の中の健康に意識するような取り組みを工夫し、校内アンケートの「食後のうがいや歯みがきをすすんでできましたか」の項目について肯定的な回答を 80%以上にする。</div> <div>歯科の治療受診率を昨年度より改善する。</div>		
<div>取組内容⑤【施策 7 健康や体力保持を増進する力の育成】</div> <div>食事の大切さに関心が持てるよう、食に関する指導を計画的に行う。</div> <div>(カリキュラム改革関連)</div>		A
<div>指標</div> <div>栄養教諭による授業を各学年、年 2 回行う。</div> <div>がんばりカードで「残さず食べた」と回答する児童の割合を 85%以上にする。</div>		
年度目標の達成状況の結果と分析		
<div>① 研究授業と全員授業が計画的に実施できており、事前の指導案検討会や授業後の研究協議会における指導助言のもとに教員が指導力の向上を図ることができた。</div> <div>・算数の授業における「授業はよくわかりましたか」のアンケート項目について、肯定的な回答の児童の割合が 94.2%になっており、目標の 90%を上回った。</div> <div>・ICT 機器を活用した授業実践を推進する研修会については、夏休みに 1 回行っており、2 回目は、2 月 26 日に「プログラミング研修会」として実技研修を実施できた。</div> <div>② 体育の授業の中で、継続的な運動や、柔軟性を高めるための取組みを全学年で行った。</div> <div>「長座体前屈」「ソフトボール投げ」の記録において、1 学期の記録を上回ったクラスは、前者 53%、後者 94%で、合計 73%であった。「ソフトボール投げ」は、身体が成長したことで記録も伸びやすいが、「長座体前屈」では、測定時期が寒いこともあり、記録が思うように伸びなかった。</div> <div>校内アンケートの「運動をするのは好きですか」の項目では、肯定的な回答が 87%であった。</div> <div>③ 自分の考えをもつことができたかの項目において 80%以上の回答が 10 学級と高い。</div> <div>問題解決学習の形の定着もできてきている。しかし、学年によってバラつきもあり、学校全体として取り組む上で、学級単位でなく学校単位で取り組む必要がある。</div> <div>④ 保健委員による週 1 回の清潔調べで、ハンカチ・ティッシュの携帯が習慣化してきたが、学級によって差があり、「ハンカチ・ティッシュを持ってくる。」と答える児童の割合が 80%にならないクラスもあった。</div> <div>アンケート結果は 60%未満で、はみがき週間での取り組みや、健口まもる隊の児童による積極的な声掛けにより自分の歯と口の健康を意識できるようになったが、食後のうがいや歯みがきの習慣化には至らなかった。</div> <div>歯科の治療受診率は昨年度の 54%を上回り、今年度 74%だった。</div> <div>⑤ 栄養教諭による年 2 回の栄養指導を行えた。</div> <div>がんばりカードで残さず食べたと回答する児童は 89%であった。</div> <div>給食委員による食事の大切さを伝える取り組みも行えた。</div>		

次年度への改善点

- ① 研究授業における参観の視点を焦点化したり、指導案の中にも取り入れたりしていくようにする。全員授業についてもできるだけ研究教科を行うようにする。
- ② 「ソフトボール投げ」の測定においては、記録が伸びている学年も多いので、来年度は「長座体前屈」の柔軟において、記録を伸ばせる学年を増やせるようにする。そのため、学年で取り組める柔軟運動を再度広め、測定時期も寒くなる時期の前にする。
校内アンケートの「運動をするのは好きですか」の項目では、肯定的な回答が87%であったことを受け、来年度の目標を90%以上とする。また、運動を楽しいものとするため、集会活動などの時間に運動遊びを設けられるよう、集会委員会と連携するなどの工夫をする。
- ③ 考えをもつことができたと回答する児童が多いことから、次は自信をもって発表することのできる児童を育てていく取り組みが必要である。まずは、発表する時の話型やハンドサインなど、発表の方法を統一することが大切ではないだろうか。
話し合う活動の工夫。ペア・小集団といった活動の中身を充実させる。
- ④ 来年度も保健委員会の活動を中心に自分の健康を守り保つための取り組みを続けていく。
来年度は年間を通じての食後の歯みがきに取り組み、習慣化を目指す。
歯科受診率をさらにあげるため、各家庭への啓発を進めていく。
- ⑤ 無理に食べさせる必要はないが、学年間で残食をなくすための取り組みについて、声掛けや方法など共有することも必要である。
〇〇週間が多いので、ふりかえりのがんばりカードをまとめられるものはまとめられるようにする。(給食週間、歯みがき、運動→健康週間など)

平成 31 (令和元) 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立鯉江東小学校 学校協議会

1 総括についての評価

中期目標にかかる年度目標の達成状況は、概ね目標に到達できていると評価できる。安心安全な学校運営については、いじめアンケートの回答について確実に対応や指導をしていることや、児童の健康・安全を推進していく取り組みを進めていることは概ね評価できる。学力・体力の向上についても全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査の結果から学校の取り組んできたことにはおおむね評価できる。体力面については今後の指導に期待したい。

2 年度目標 (全市共通・学校園) ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】

全市共通目標 (小・中学校)

- ・年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- ・小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と答える児童の割合を 90% 以上にする。
- ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる割合を、前年度より減少させる。

学校園の年間目標

- ・年度末の校内調査の「学校生活は楽しいですか」の項目において、「はい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合を 90% 以上にする。
- ・年度末の校内調査の「学校ではすすんで挨拶をしていますか」の項目において、「はい」と答えた児童の割合を 75% 以上にする。

- ・いじめについての取り組みは学期ごとのアンケート以外にも、他のアンケートでも様子をとらえるようにし、未然にいじめ防止を進めてきたことは評価できる。しかし件数が増えたことは対応が進んでいるとはいえ課題が残る。一層の取り組みをお願いする。
- ・学校に行くことが楽しいと回答する児童が多いことは地域の学校として頼もしいことである。
- ・以前に比べあいさつはよくなってきているが一層の指導を進めてほしい。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標 (小・中学校)

- ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の記録を前年度より増加させる。
- ・ 全国体力・運動能力習慣調査において、体力合計点を前年度より 1 ポイント増加させる。

学校園の年間目標

- ・ 全国体力・運動能力習慣調査において、課題である長座体前屈・ソフトボール投げの平均の記録を、前年度より向上させる。
- ・ 校内児童アンケートにおいて自分の健康に関心をもつ項目の肯定的な回答の割合を 80 %以上にする。

(清潔検査に加え、歯・口の中の衛生にも関心をもたせるアンケート項目をいれる)

- ・ 学力経年調査において全学年が前年度より標準化得点が上回らなかったことは残念である。来年度は一層児童の学力向上に向けて取り組んでほしい。
- ・ 正答率が市平均の 7 割未満の児童の割合が減り、正答率が市平均より 2 割以上である児童の割合は増えたことは好ましいようであるが、学力の 2 極化には気を付けてほしい。
- ・ 体力については調査結果からみて指導の改善が必要ではないか。目標を立てさせ取り組む等、指導の改善を望む。
- ・ 測定の仕方が正確なのか疑問である。測定者の研修を進めてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

本年度の取り組みの結果として補おおむね評価できる。学力向上について学校の研究を通して進めてもらっていることは心強い。しかし、体力向上については課題を感じる。学校としてどのように改善すべきか考えてほしい。いじめ防止にかかる取り組みは丁寧に取り組んでいると評価できる。情報端末の所持率が高く、トラブルも多いと聞いた。情報モラルを含め児童や家庭への啓発に努めてほしい。不登校児童への取り組みや校外での生活指導上の事案についても、これまでのように丁寧に進めてほしい。